

人間総合学部 初等教育学科

テーマは「ヤングケアラー」についてです。

社会を取り巻く環境が大きく変化する中で、ひきこもりやヤングケアラーなど、複雑化・複合化した課題が顕在化しています。特に我が国においても2020(令和2)年3月からはじまった新型コロナウイルス感染症の拡大により、孤独感を抱えた人が増えたとされています。ひきこもりはもちろんのこと、ヤングケアラーに該当する人たちも、その可能性が高くなる心配があります。こうした背景をもとに、近年初めて大学生を対象に全国調査が行われたヤングケアラーをとりあげ、どのような支援が求められるか、同じ大学生の目線に立って考えていただきたいと思います。

「ヤングケアラー」とは、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども(18歳未満)を指しています。ただし18歳を超えた大学生などであっても、その家庭状況に鑑み通学することができない等、毎日の生活に大きな影響を与えていることが予想されることから、成年年齢である18歳で支援が途切れるというのはケアラーの福祉や教育を保障する観点から適切ではありません。そこでこれまで全国規模では実態把握が行われていない大学生(大学3年生)を対象に、家族ケアの状況、ケアラーの実態等を把握することを目的として調査が行われました。

・『ヤングケアラーの実態に関する調査研究』(令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業)

日本総合研究所 2022(令和4)年3月

http://www.jri.co.jp/file/column/opinion/detail/2021_13332.pdf

調査の報告書となります。

この中で大学生を対象とした「第4章 大学生の生活実態に関するアンケート調査結果 2. 大学生アンケート調査の結果(単純集計)」(特にpp137-186)を概観して、ケアラーの実態・意識を把握してください。

その上で「第6章 調査結果取りまとめ 4. 大学生調査」(pp344-349)をよく読み、ケアラーを支えるために、何ができるかについて考えていただければと思います。